

水戸殉難者恩光碑保存会 会報

知恩

第九号



2011 (平成 23 年) 3 月 11 日 午後 2 時 46 分
東北関東大地震 発生
恩光無辺碑
地震の後、3 月 13 日 撮影 (川上)

平成 23 年 3 月 11 日

午後 2 時 46 分

東日本大震災 発生

被災者の皆様に心より
お見舞い申し上げます。

茨城県も被災甚大であります。

地震、津波、停電、断水、放射能等
大変な状況にあります。

テレビは、茨城県内の震災状況の
放映・報道が少ないようですが、被
災地は大変な状況にあります。

こうした中で、大変心配しており
ましたが、水戸市祇園寺境内に建つ
「恩光無辺の碑」は、大地震にも耐
えて倒壊しませんでした。地震災
害として、次の事が見受けられます。
碑そのものが右側に傾き、また後方
にも傾いています。下側の台座は各
所に亀裂が入り損壊しています。余
震に耐え得るか心配です。会員の皆
様に、恩光無辺碑の被災状況につい
てご報告申し上げます。

定時総会を水戸市、祇園寺・客殿

大広間で開催する準備中の所、3 月
11 日・大地震が発生しました。

大地震により、開催中止の連絡方
法も無い状況になりましたが、大変
な時にもかかわらず、お集まり頂い
た方々のご了解のもと、簡略化して
総会を実施致しました。

又、非常時にもかかわらず、

総会にご参加を頂きました皆様に心
より厚く御礼申し上げます。

被災された会員の皆様に心よりお
見舞い申し上げます。

定時総会終了の報告

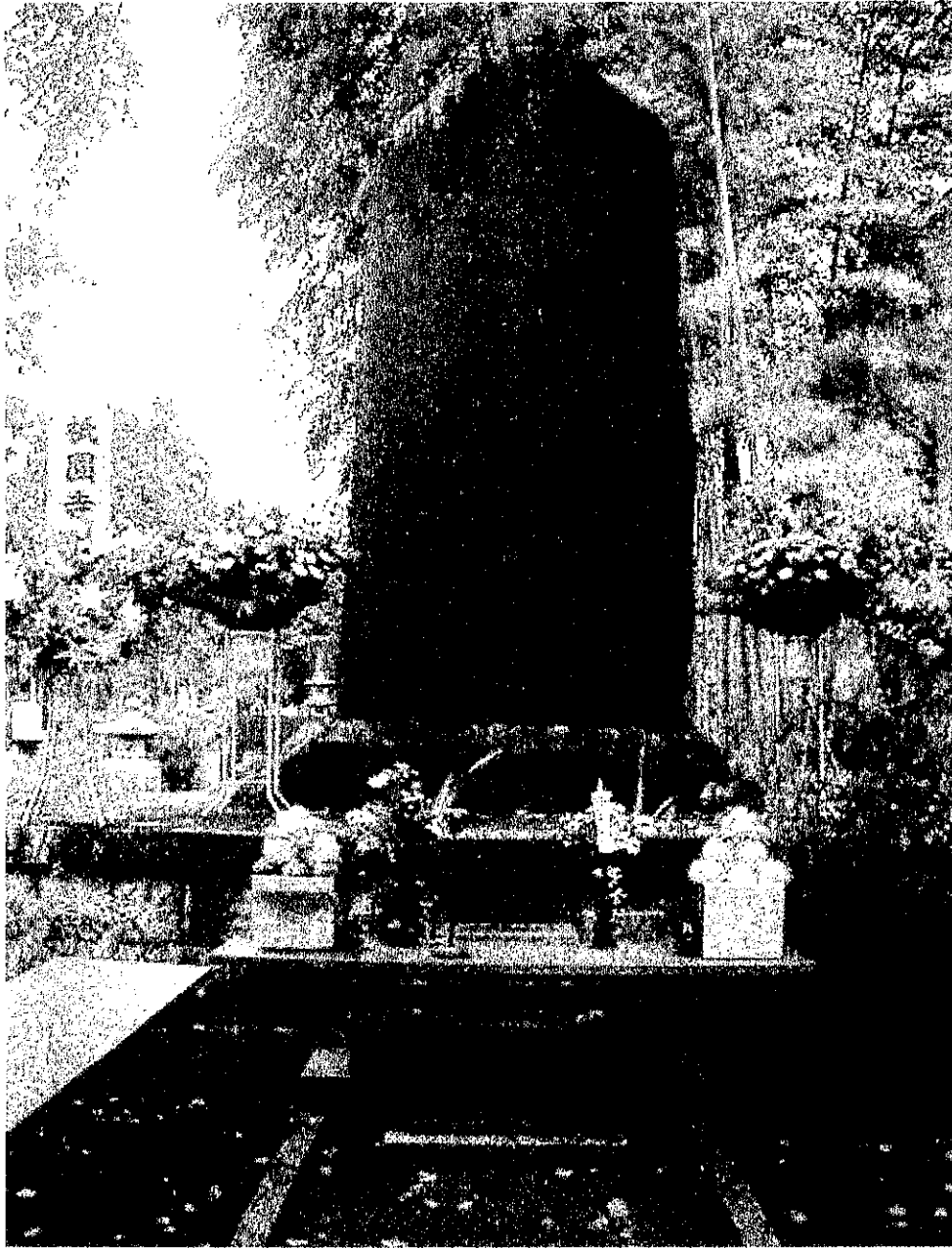
平成 23 年 3 月 13 日、総会を行
ったことをご報告致します。

別紙・総会資料に記載の全議案は、
原案とおり承認決定されました。
詳細は議案書をご参照下さい。

ご存知のように、

水戸市においても、多大の災害が
発生しました。祇園寺客殿大広間は
損壊し使用不能となり、境内・前庭
に場所を移し、非常時の中でしたが、
総会を実施しました。

恩光無辺碑



建碑場所	水戸市八幡町 11-69	祇園寺・境内
建立	室田義文	昭和 9 年建立
篆額	室田義文	
撰文	朝比奈知泉	
碑裏面	水戸藩諸生派殉難者姓名を刻み記録されている	
慰霊祭	第 1 回	昭和 11 年 9 月 23 日

平成23年度 定時総会次第

日時 平成23年3月13日(日曜日)
午後1時30分より

場所 祇園寺の境内前庭において。

★東日本大震災により、祇園寺客殿
大広間の会場は損壊し使用不能にて、
非常時につき境内において、簡略化
して総会を行いました。

7 講話

桜田門外の変
については、非常時につき省略
しました。

全終了 午後3時

議事

第1号議案

平成22年度行事報告

1 平成22年10月27日

現地・会津若松市 白虎隊記念館

敷地内に建立された慰霊碑

「水戸藩諸生党鎮魂碑」前におい

て建碑・10周年を記念して

「水戸藩諸生派国事殉難者慰霊式」

を来賓ご列席の上、盛大に挙行致

しました。式典終了後、直会、

会津戊辰戦争・戦死者墓所を訪問

慰霊参拝及び史跡見学をしました。

又、一泊して

水戸会津交流懇親会を行いました。

2 総会 平成22年3月16日に、

祇園寺客殿にて開催

3 役員会 2・8 6・25 9・27

4 事務局 3・29 5・21 10・18

5 会報編集会議 4・15 11・19

6 慰霊祭準備会 5・8 (水戸)

5・16 (会津) 10・18 (会津)

第3号議案

平成23年度行事計画

1 水戸藩国事殉難者慰霊法要を執行
予定

平成23年9月22日(木) 予定

水戸市 祇園寺において

祇園寺本堂内において慰霊式典を
挙行、後、恩光無辺碑参拝、直会
の予定

「後日決定の上連絡する」

2 総会 平成23年3月13日(日)

3 役員会 平成23年9月頃予定

4 事務局 随時予定

5 会報編集委員会

平成23年4月、10月予定

6 会報知恩発送

平成23年5月、11月予定

7 その他

8 中長期計画(参考)

1 平成24年度(来年度)

新潟県西山町灰爪の丘・墓所

慰霊参拝

水戸藩家老・佐藤図書墓の墓参拝

史跡・出雲崎代官所跡見学

その他

2 平成25年9月

祇園寺において慰霊法要予定

第6号議案

任期満了により全役員改選の件

第3期・任期
平成23年1月より24年12月まで

第3期役員

顧問 小原宜弘

大森信英

野澤 汎

朝比奈光一

川上有文

蔭山二郎

前澤瑞穂

清水光夫

朝比奈泰仁

綿引周一

岡見 薫

朝比奈泰紀

平戸吉衛

一澤勝男

信木義通

綿引正明

野田 稔

弓削徳衛

岡見瑞江

田口 寛

大森泰夫

大森信男

宇留野光

監事

理事

★ 休憩

2010.1.1~2010.12.31 平成22年度収支決算書 第2号議案

番号	収入の部	収入金額	収入内訳	摘要
1	年度会費	100,000		22年度会費
2	会津旅行関係	340,000		会津朝重旅行参加金等
	参加金費		325,000	会津朝重旅行参加金等
	米津供養金		127,000	水戸・会津米津供養金
	会費寄付		80,000	基金特別会計(寄付金)会費会津供養金
	補助金		28,000	基金特別会計(寄付金)より補助
	小計		540,000	
★	収入合計	640,000		
	支出の部	支出金額	支出内訳	摘要
1	法要費	1,400		総会供花代
2	通信費	39,485		総会、役員会、会津連絡
3	資料費	27,536		5月発行・会報知恩7号ほか
4	会費費	12,606		3月・総会会場謝礼
5	事務費	210		事務用品
6	雑費	5,370		その他
7	雑入料	8,990		会費・会費振込料
8	会津旅行関係費	540,000		
	宿泊費		301,050	真山温泉千代滝泊泊費
	車賃		61,500	会津小法館通会津食費
	食費		24,150	会津小法館食費
	交通費		29,360	会津道通送料外
	保険費		8,000	保険料
	聖蹟法要費		30,000	龍園寺法要お布施
	渉外費		25,511	会津案内謝礼と土産品代
	打合せ金費		54,002	会津出張打合せ、2回
	多良費		2,200	会津会費代
	その他		3,227	真内紋物及び資料作成
	小計	635,597		
★	支出合計	635,597		
★	水戸殉難者恩光碑保存会会計			会計・現金出納帳
1	前期より繰越	15,039		前期より繰越
2	収入合計	640,000		22年度・当期収入合計
3	支出合計	635,597		22年度・当期支出合計
4	差引残高	19,442		平成22年12月31日残高
★	東京貯金センター	金計		会計・郵便局受払総括
1	前期繰越	1,000		前期より繰越
2	当期収入	311,000		当期入金・年会費及び会津旅行金費
3	当期支出	311,000		当期払出・出納へ
4	当期未残高	1,000		平成22年12月31日要私残高
★	恩光碑基金特別会計			恩光碑基金会計総括
1	前期繰越	331,674		前期より繰越
2	当期収入	72,123		当期入金・寄付金と預金利子
3	当期支出	88,000		当期払出・出納へ
4	当期未残高	315,797		平成22年12月31日残高

平成22年度収支決算を上記のとおり報告します

平成22年12月31日

水戸殉難者恩光碑保存会

会長

事務局長

会計

監事

監事

朝比奈光一

川上育文

楠引周一

大森信男

戸袋勝文

監査報告

平成22年度・会計監査をした結果、収支ともに適正であることを認めます

平成23年 月 日

水戸殉難者恩光碑保存会

平成23年度 予算 第4号議案

平成23年1月1日~平成23年12月31日

単位:円

科目	収入の部	金額	支出の部	金額	内訳	摘要
前期繰越	19,442		一般経費	148,000		
年度会費	180,000		寺院費		10,000	会津借付礼金
会費年全費		180,000	通信費		70,000	郵送費・切手等
			資料費		40,000	会津連絡
			会費費		10,000	会津連絡
			事務費		10,000	会津連絡
			雑費		8,000	会津連絡
			雑入料		148,000	経費小計
法要参加費	130,000		聖蹟式典費	150,000		
会費		120,000	お布施		70,000	法要お布施
同伴家族		10,000	供花		30,000	法要生花
			圓袋		50,000	法要食料費
			その他		150,000	経費小計
合計	329,442		合計	329,442		

差引	前期繰越	当期収入	当期支出	残高
	19,442	310,000	329,442	0

平成23年 3月13日

水戸殉難者恩光碑保存会

第5号議案

◎旧会則の主な改正点

第1条 水戸藩国殉難志士を慰霊する会を別称とする…を追加する。

第9条 代議員制度を廃止するために…旧会則第9条条文を削除する。

第10条 年会費を改定する… 全会員・年会費 ¥2,000円とする。

第11条 本会・事務局所在地を変更する…水戸市堀町1213-14にする。

その他 アンダーランの所を字句の訂正をする。

◎付則第2・恩光碑保存会特別会計の内、第3項を追加する。

第3項、恩光無辺碑に修理を要する破損が生じた場合、その補修費の一部として

この基金特別会計より出金して対処する。

第5号議案

水戸殉難者恩光碑保存会
会則

- (名称) 第1条 本会は、水戸殉難者恩光碑保存会 と称する。
又、水戸藩国事殉難志士を慰霊する会 を別称とする。
- (目的) 第2条 本会は、幕末維新の時、水戸藩諸生派に所属し国事に奔走して殉難した人々を慰霊し、供養する。
- (行事) 第3条 第2条の目的を達成するため、次のとおり、慰霊法要を行う。
1 行事 水戸藩国事殉難者慰霊法要
場所 祇園寺 茨城県水戸市八幡町11-69
期日 原則として、隔年 の彼岸期間中
2 その他 茨城県内・外の現地慰霊行事
- (会員) 第4条 本会は、水戸藩諸生派の後継子孫、親族、縁者及び本会の趣旨賛同者のうち、年会費納入者を会員とする。
但し、2年以上会費未納者は退会したものとする。
- (参列者) 第5条 慰霊法要は、全会員に通知して行う。
特に、節目の年などに行う慰霊法要については、特別参列者を招待する。
特別参列者については、その都度、役員会で決定する。
- (役員) 第6条 本会を、運営するために、次の役員を置く。
(1)会長1名 (2)副会長3名 (3)常任理事若干名
(4)理事若干名 (5)会計2名 (6)監事2名
- (役員) 第7条 会長は、総会で選出する。
他の役員は会長が指名し、分担役割を委嘱する。
任期はいずれも2年とするが、再任は妨げない。
- (顧問) 第8条 本会に、顧問を置くことができる。
(代議員) 第9条 廃止 条文削除する
- (会議) 第9条 本会を、運営するため会議を開催する。
1 総会は 最高議決機関として、全会員に通知し、年1回
定時に開催する。
但し、必要に応じて開催することができる。
2 役員会は 全役員が参加して総会提出議題等を審議する。
3 事務局会は 正副会長、常任理事が参加して役員会提出議案等を協議する。
- (会計) 第10条 本会を、運営するために、会計基準を次のとおり定める。
1 収入の部
① 全会員・年度会費 ￥2,000円
② その他
2 支出の部 必要経費 勘定科目別仕訳基準により支出する
3 会計帳簿 ①水戸殉難者恩光碑保存会・会計簿 (現金出納)
②東京貯金センター受払簿 (会費振込)
4 ②東京貯金センター受払簿 (毎年)
5 会計年度 1月1日に始まり、12月31日に終わる (毎年)
- (本会
所在地) 第11条 本会は、事務局を 次の所に置く
水戸殉難者恩光碑保存会
- (その他) 第12条 1 その他必要事項については役員会で協議し決定する。
2 この会則変更は総会の議決により改定する。
- 付則 1 この会則は平成18年10月22日から施行する。
2 この会則は平成23年3月13日から施行する。

付則第1 会費納入について

会則第11条第1項「収入の部の規定により、会費の納入（お支払い）を戴くことになりました。また、会費の納入を以て入会の手続きとさせていただきますので、郵便局に払い込みをお願い致します。

記

- 1 年会費 会費は、会計年度（1月1日から12月31日まで）の年会費とし、
定時総会後に郵便局の「払込取扱票」をお送りしますので、毎年納入をお願い致します。
定時総会は原則とし毎年・3月に行います。
但し、初年度は、平成18年10月22日から平成19年12月31日までとする。
全会員・年度会費 2,000円

支払方法

- ① 郵便局の振替用紙・払込取扱票に住所、氏名をご記入の上
最寄の郵便局にお支払い願います。
② 郵便局の払込受領書を領収書とし、本会より領収書は発行致しません。
③ 会費以上の金額は、寄付金とさせていただきますので宜しく願い致します。
④ 金額を訂正した場合は、その箇所に訂正印を押してください。

- 2 法要参加費 慰霊法要参加費については、法要当日受領致します。

※ 入会の手続き方法

- ① 郵便局指定の（払込取扱票）に所定事項を記入して最寄りの郵便局に払い込む
② 口座記号番号 00190-0-669569
③ 加入者名 水戸殉難者恩光碑保存会
④ 金額 記入
⑤ 住所・氏名 記入

付則第2 恩光碑保存会基金特別会計
別名 （不測の事態対処寄付金積み立て特別会計）

水戸殉難者恩光碑保存会の行事などの不測の事態に対処するため、特別会計勘定を設けて、その運営の健全化を図るために、会計基準を下記の通り定める。

記

- 1 名称は 恩光碑保存会基金特別会計 と称する。
2 目的1は 法要行事運営上、不測の事態等の発生により、水戸殉難者恩光碑保存会に資金不足を生じた場合に、この基金特別会計より出金して対処する。
3 目的2は 恩光無辺碑に修理を要する破損が生じた場合、その補修費の一部としてこの基金特別会計より出金して対処する。
4 資金は 役員、会員及び本会趣旨賛同者の方、各位の任意の寄付金を積み立てて基金とする。
5 資金は 資金限度額は、役員会で決める。
6 会計処理 この特別会計は、水戸殉難者恩光碑保存会・付則とし、会則第10条の規定（会計基準）と同等に会計処理する。
7 変更 本規程の改定は総会の議決により決める。

会長就任にあたって

平成23年3月13日

川上有文

本日、東日本大震災直後の非常時にも関わらず、ご参集頂きまして有難うございました。

このたび会長の任務を引き受けることになりました川上と申します。微力ではありますが、誠心誠意この大役を果たして参るべく、心新たにしているところであります。宜しくお願い致します。

大地震直後の非常時にて、ご連絡のしようがなかったのですが、ご自宅が大変な状態にもかかわらず、総会にお集まり頂いた皆様には心より御礼申し上げます。

「本日どうするかについては、(簡略化してもよいから実施すべし)とお話頂き、予定通り総会を実施致しました。」
内容は報告書(総会次第書)の通りであります。

本会の設立の趣旨は、「この慰霊碑はこのままでは無縁のものになってしまふ、又、水戸藩幕末史において門閥諸生派の存在が歴史の闇に完全に埋没してしまふ」との危機感により、(今、我々がやらなければ誰もやる人はいないのではないか)と初代会長大森信英先生が決断なされ、

当・祇園寺において、平成16年に慰霊祭を挙げたのが始まりであります。

私達は今まで長い間歴史の暗闇の中にあり、国事に奔走して斃れた諸生派の人々のために、慰霊行事を行い、多くの人々に、諸生派の史実をご理解頂き、水戸藩幕末史の真実をご理解頂きたいと心より願うものであります。

少しでも、多くの人々にご理解の輪が広がれば、これに超した喜びはありません。

更に、私は皆様と共に、次の事を確認したいと思ひます。

一つは、県内外各地に諸生派殉難者を供養する心の温かい人々が居るということ、です。

二つは、水戸市長をはじめ教育委員会、また水戸市議会議長をはじめ市議会の方々にも諸生派の実情をご理解頂き協力を頂いているということ、です。

私達はこれらのことを深く心に留め、心より感謝しなければならなと思います。

私どもにできることは慰霊の行事しかありません。これからも、慰霊の行事を行い、水戸藩諸生派殉難者に、少しでも「光」を当てて参る所存であります。以上



平成6年 恩光無辺碑 整備記念
碑域整備記念 来栖平造氏ほか参加



昭和10年10月12日 恩光無辺碑 除幕式記念
恩光碑除幕式 室田義文翁ほか参加



平成19年9月22日 水戸殉難者恩光碑保存会主催 (第一回) 慰霊祭記念
慰霊祭 岡田広参議院議員ほか参加



平成16年9月23日 水戸藩国事殉難者慰霊祭復活記念
慰霊祭復活 狩野安参議院議員ほか参加

水戸城
大手門
写真

水戸城大手門の古写真（文京ふるさと歴史館所蔵（東京都文京区））

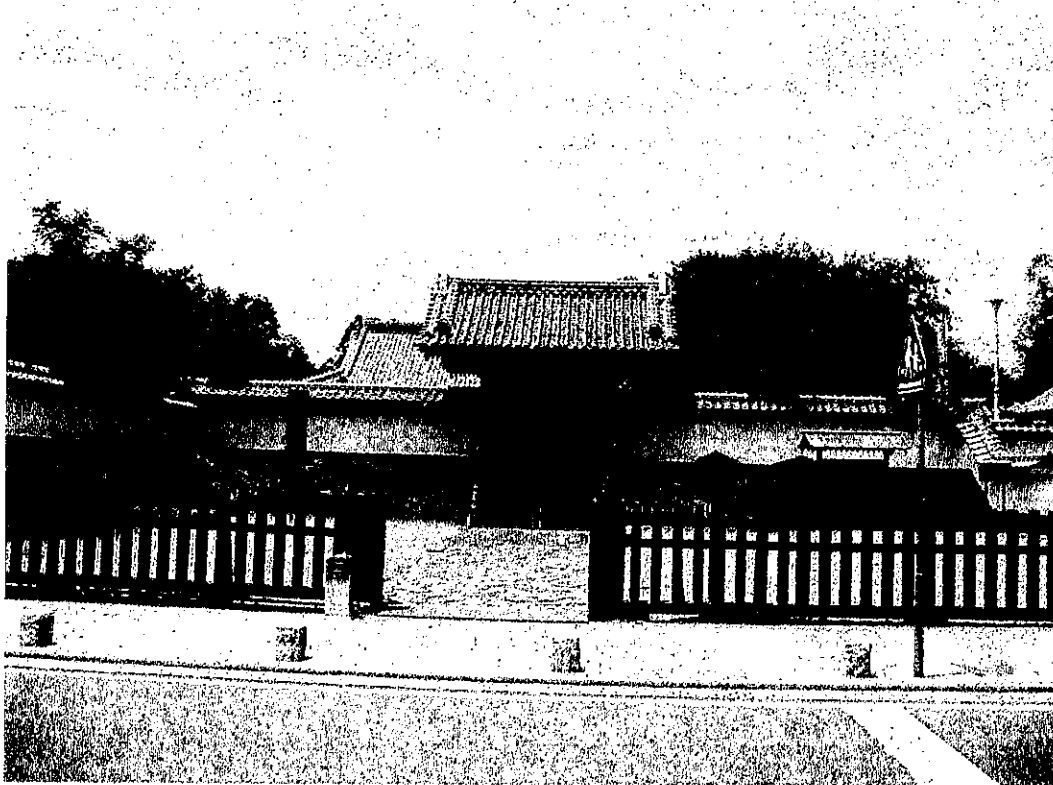


水戸城
三階櫓
写真



旧水戸城二之丸・三階櫓の旧観
(市内 丸山写真館蔵 丸山英二氏提供)

2007 年（平成 19 年） 夏
水戸 弘道館・正門



弘道館 正庁

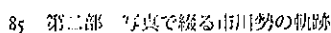


幕末期、天狗派と諸生派の二派に分かれて、血みどろの藩内抗争を繰り広げた水戸藩、その悲劇は、一橋慶喜を頼つて京都に向かつた武田耕雲斎以下350名の天狗派が敦賀で処刑されたことに象徴されるが、

王政復古によって天狗派が勝利すると、市川勢500人は水戸を脱走して、会津・新潟と転戦、再び水戸に戻り、さらに南下して、ついに八日市場で壊滅する

この231日間、1000kmに及ぶ悲劇の行軍の跡をたどる「市川勢の軌跡」・本書は、明治以来、ほとんど語り伝えられることなく、歴史の闇に消えつつあった。水戸藩のもう一つの真実に光をあてるものである。

以上



◆市川勢の軌跡

福島県

市村眞一

会津藩降伏が田島に伝わったのは25日。行き場を失った市川勢は、協議の結果、水戸に戻ることを決め、佐川に別れを告げ、会津藩以外の兵（旧幕府軍、新撰組、長岡藩兵など）とともに直ちに水戸に向け出発した。

栃木県

片府田の戦い

市川勢ら一行は9月25日に田島をたつと、栗生沢から一気に険しい山越えを敢行、会津藩領を出て板室に入る。新政府軍の略奪に反発する農民は農兵隊を組織し、ゲリラ戦を展開していた。とくに栗生沢農兵隊は優秀で、市川勢の山越えに協力的だった。

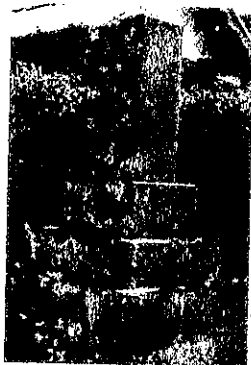
板室から山を下り、百村に宿泊した市川勢が、新政府軍を避けるように高林、石上を経て片府田に到着したのは26日夜。近くには箒川が流れる平坦な地形に、それまで険しい山間部ばかり通行してきた市川勢は気持ちが悪かった。

一行は約300人。そのうち30人が宝寿院に宿泊し、残る270人は民家に分宿した。一行の動きは、

地元の太田原藩につかまれていた。27日未明、太田原、彦根、阿波の3藩兵500人は攻撃を開始した。朝食の準備をしていた市川勢らは慌てて応戦。激しい銃撃戦となった。白兵戦になると、阿波藩兵は動かず、太田原、彦根藩兵だけが戦った。不意打ちにあった市川勢は、戦況不利とみて、2時間後に佐良土方面に去った。

この戦闘で、市川勢の9人が戦死した。いずれも宝寿院墓地に埋葬されたが弔う者もなく無縁仏となっていた。20年後の明治21（1888）年9月27日、これを哀れんだ地元の女性たちが供養塔を建て、慰霊した。九人の氏名は不明。

供用塔 写真



片府田の宝寿院の片側に立つ
戦死した市川勢の供養塔

宝寿院の写真



脇差一振り

片府田の戦いに敗れた市川勢の幹部は、逃れる際、世話になった地元の者にお礼にと脇差一振りを贈呈した。銘文

「笠間住源正行」

「安政四年二月」

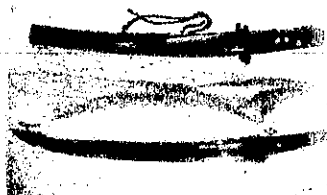
刀身36センチ

黒塗り鞘

「笠間藩刀工」

高木正行 作

子孫が大切に保存。市川勢の数少ない遺品といえる。



佐良土の戦死塔

片府田を敗走した市川勢は佐良土に出るが、黒羽藩が待ちうけていた。戦闘となり、数時間にわたり激戦を展開した。夕刻となり、市川勢が次第に優勢となった。市川勢は箒川を渡り始めるが、これを黒羽藩は追わなかった。

箒川と那珂川が合流するあたりの小川のほとりの藪の中に、小さな石碑がある。「戦死塔」「明治元年九月二十七日」と刻まれている。市川勢の戦死者を地元の方が弔ったといわれている。

ここで戦死したのは、

先手同心頭・芦沢祐七郎、

徒士・斎藤捨松、

吟味役・中川彦四郎の3人。

供養塔 写真



茨城県 水戸城下に入る

市川勢が水戸を目指していることを水戸藩が知ったのは、市川勢が領内に入る直前だった。会津城が落城した九月二十二日、城近郊の永井野にあった水戸藩の追討軍本隊のなかで、市川勢の動向について「水戸に向かったらしい」「いや北方に逃亡したようだ」と二つの風評が取り上げられた。隊長の山口徳之進は水戸の可能性が強いと判断。徒目付渡辺吉太郎を急ぎ水戸に走らせ、二日後渡辺は藩庁に報告した。

あわてた水戸藩は、市川勢が通行しそうな場所に藩兵を配置すると共に、支藩の宍戸藩、森山藩や松岡藩の中山家などと呼びかけ、守備固めに入った。馬頭村や小野河岸対岸を守備したのも報告を受けたからだろうが、いずれも少人数のため守れなかった。

小野河岸を渡った市川勢は、二十九日、石塚村（城里町）の守備隊も撃破した。黒崎雄二は「石塚で宿をとるとみせまして、その実、一泊もさせぬ。それから、いよいよ城中に斬り入る内議であります。そのとき、死を決して進むのに見苦しい風をして倒れては恥ずかしいから、頭の髪を結い、毛の伸びた者はそれがよろしいというので風俗を改めまし

たが、如何せん衣服は穢うござい

す。若し不幸にして目的を果たさずんば瑞竜山に参つて残らず割腹するという協議であります。それで一層力を得まして、その晩立ちまして水戸城へ参った様な訳であります。」と明治三十九年（1906）の史談会インタビューに答えている。

石塚から飯富（水戸市）まで来た市川勢は、ここで2隊に分かれ、水戸藩の警護が厳しい金沢坂を避けて那珂川沿いに城下を目指す。1隊は、谷中の藩共有墓地の坂から本道に出て、下金丁、上金丁、田見小路に向かった。もう1隊が、さらに那珂川沿いを進み水戸城の北側にあたる杉山河岸から城内を狙う。途中小競り合いがあり、双方に死傷者が出た。

一方、市川勢が迫ってきたことで、藩内には恐怖と緊張が広がり、二十八日から十月一日にかけ、赤沼の獄にあった諸生派の重臣を次々と処刑家老天野伊内、若年寄近藤儀太夫ら四十余人を斬殺した。

写真



水戸城下での戦闘を前に諸生派の処刑が行われた赤沼の跡

水戸城下の戦い

九月二十九日夜、谷中から城下に侵攻した市川三左衛門率いる一隊は、市川家の墓所祇園寺を左手に見ながら、下金丁から上金丁に入る辺りで、水戸藩家老山野辺主水正率いる部隊と激突。北越、会津で修羅場を経験した市川隊が優勢となり、山野辺隊は城内に撤退した。

市川隊が谷中から本道に出た所で、最後尾にいた側用人荻庄左衛門、勇太郎親子は、隊とは反対の方向に行き、間もなく菩提寺の本行寺に着く。庄左衛門は、そこで母親に遺書を認め、祖父の墓前で自刃、勇太郎も後を追う。遺書には「水戸への帰路、左手に銃弾を受けたために皆に遅れ一人になり身体不自由のため自刃の覚悟をした」とある。もう戦えないし、足手まといにならぬよう自決したと受け取れる内容だ。荻親子が自刃した時期は、市川勢が十月二日に水戸を去るときという説もある。又、自刃の理由を、水戸城に入ろうとする市川に対して、墳墓の地を汚すべきでなく帰順を主張したが、受け入れられなかったからの見方もある。いずれにしても、やっと水戸に戻りながら自ら死を選んだ荻親子は哀れというほかはない。

十月一日未明、市川勢は関の声を上げて水戸城に迫った。市川らは城下北側を攻め、北郭見附門（現在の茨城新聞社前辺り）を破り、大手門まで迫る。藩兵らは大手門を閉ざし、城内から銃撃を加え、市川らは反対側の弘道館に入って応戦。

那珂川に沿った御杉山に陣取った朝比奈弥太郎隊は、急な坂の上にある柵門を目指して駆け上がる。この一隊には旧幕府軍や長岡藩兵もいた。旧幕府軍は「徳川再興」と書いた大旗を押し立てたが、藩内抗争とみて、戦闘にはほとんど加わらなかった。藩兵らは、ここを落とされては城内に入られるとあって必死に防戦。このため、攻め切れずに朝比奈隊は市川らのいる弘道館に向かう。激戦で、市川の長男、主計ほか死者が出た。朝比奈隊の若い志水陸一郎は納得できず、市川と朝比奈に「いまなら城内は兵が少ない。兵が集まる前に城内に攻め込むべき」と主張した。無謀と拒否された志水は、同志十数人を連れて御杉山に戻ると、西端の城壁をよじ登り、城内へ突入。かなりの城兵を倒すが、次第に追い詰められ、全員殺された。

弘道館の総力戦

十月一日(新暦十一月十四日)は、朝から快晴で西風が吹いていた。

市川勢が水戸城を攻撃したのは午前四時ごろ。大手門や御杉山柵門から突入を図ったが、守りが固く、城内に入ることはできず、主力は弘道館に集まり、大手橋を挟んで対峙した。

城下で戦っていた藩兵らは、午前十時ごろには、市川勢がいない城南の柵町柵門から城内に入り、城内は藩兵で埋まった。熱気が高まるなか、城内から弘道館に鉄砲がしきりに撃ち込まれ、弘道館側からも城内に向けて発砲。その一部は、前藩主夫人などの居室の庭にも着弾した。

本園寺勢の鈴木縫殿ら藩重臣は、軍議の上、午後四時に三方から総攻撃することを決めた。一隊は、大手門から弘道館正門を破る。いったいは、柵町柵門から弘道館南柵門に向かう。一隊は、御杉山柵門から弘道館北柵門を目指す。三方から一斉に弘道館に突入し、市川勢を全滅するという戦術だ。

そして午後四時、大手門を開き、多くの藩兵が関の声を上げながら大手橋を渡り、弘道館正門に殺到した。正門脇の通用門を破ると、次々に中に。二手に分かれ、一手は北側の文

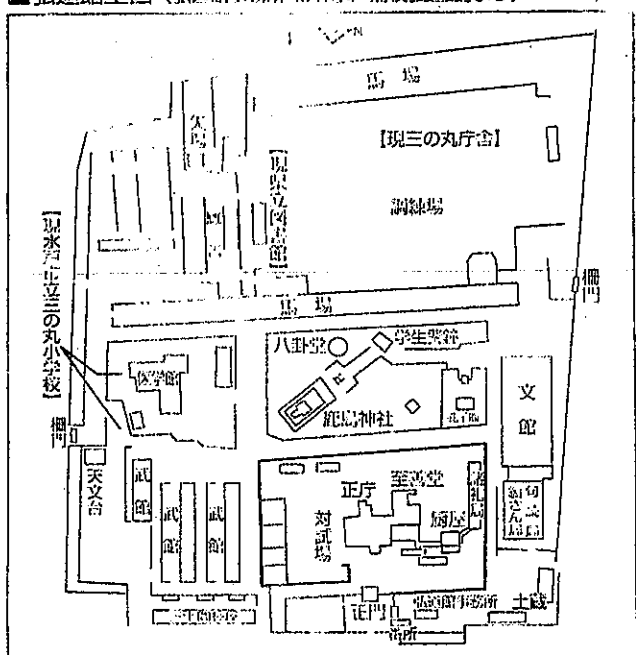
館に、一手は南側の武館に進む。文館に向かった監府隊百余人を率いた目付鮎沢伊太夫。天狗党西上に加わり、途中離脱し、備前国から京都に出て、本園寺勢と帰国。第一次市川勢追討軍の一員として白河にも出向いた鮎沢は、敵弾を胸に受けて戦死した。その間に、弘道館の南と北からも藩兵が繰り込み、弘道館の各所で市川勢と激闘となった。市川勢と馬頭で戦った久米鉄之進は、再び刃を交えるが戦死。

数に劣る市川勢はじりじりと後退、西側の調練場(旧県庁舎)辺りまで追い詰められところで、夕暮れとなり、山野辺邸(茨城新聞社辺り)に総退却する。弘道館の南側に並ぶ重臣の屋敷は、城内から撃ち込まれた砲弾により火災を発生、折からの西風で市川三左衛門の元屋敷(水戸駅辺り)まで七軒が焼失した。

この戦いは約一時間で終わったが、戦死者は市川勢90人、水戸藩側87人に上った。戦傷者は水戸藩130人、市川勢は78人、捕縛された市川勢は11人だった。彼らは、後に全員処刑された。

この後、市川勢は千葉県八日市場の戦いで全滅した。のである。

■弘道館全図(弘道館事務所蔵「水戸藩校弘道館」より)



弘道館 正庁



弘道館の正門にはいくつもの銃弾のあとが残っている

明治元年

水戸藩士「諸生派」

主な殉難者

○水戸とその周辺の殉難者
（「弘道館の戦い」、その他）

刑死

家老 天野伊内
若年寄 石原主馬
大番組 生熊徳之助
徒士 生熊丑次郎
家老 小山小四郎
大番組 大畑理八郎
奥祐筆 岡見彦五郎
新番組 尾高理右衛門
先手同心頭 軽部熊太郎
大番組 加藤孫三郎
奥祐筆 加古祐助
大番組 額田久兵衛
小十人列 金沢藤之介
先手同心頭 児玉団右衛門
勘定奉行 鯉淵幸蔵
郡奉行 小室善兵衛
蔵奉行 小泉佐十郎
新番組 佐藤万右衛門

刑死

小十人組 斎藤領介
奥祐筆頭取 高倉平三郎
旗同心 高田重三郎
大番組 津田幸之介
御用人 戸祭久之丞
馬廻組 根元省吾
寄合指引 野沢儀右衛門
文庫役 野沢三郎衛門
持頭 安松佐一郎
小十人目付組頭 本郷金右衛門
小十人組 松葉介之丞
徒目付 松井秀之進
若年寄 近藤儀太夫

牢死

先手同心頭 朝比奈新右衛門
文庫役 市川秀五郎
一澤千蔵
飯島要之介
尾羽権之介
祐筆 大内午之介
小十人組 木村政次衛門
天下野郷士 小室金一郎
奥祐筆 鯉淵善蔵
郷士 山田又三郎
家老 鈴木長門守
城代家老 鈴木石見守
石見守長男 8歳鈴木鋸太郎
石見守二男 5歳鈴木甚次郎

牢死

小納戸役 鈴木定五郎
小普請役 鈴木運之介
寺社役 内藤儀左衛門
表医師本席 内藤魁之丞
小十人目付 藤谷市郎
岡見市蔵

殺害

大寄合頭 芦川市兵衛
矢倉奉行 秋山長太郎
大目付 市川市平
馬廻組 石川金之介
馬廻組 名越大八郎
留守列 外岡庄衛門
中奥番 佐藤敬之進
小姓頭 大森金八郎
勘定奉行 岡田左次衛門
大番組 岡本勇四郎
大番組 岡田熊太郎
先手同心 塩沢四郎左衛門
先手同心 佐野孫次郎
勘定方勤 杉山伊三郎
鎌倉英勝寺代官 鈴木弥太夫
文庫役列 藤村吉郎兵衛
書院番組 福王忠左衛門
小十人組 福王宗之丞
同・目付組頭 信木縫殿之進

自刃

徒士 岩沢政五郎
小納戸 鵜殿内匠
町奉行 小笠原五兵衛
同・夫人 小笠原たか
小十人組 小田部壮三郎
徒列 白石要介
与力 島根平十郎
島根梅之助
太田原伝蔵
中川淳一郎
宇田川松之介
荻庄左衛門
太田十郎左衛門
荻勇太郎
高久彦三郎
佐々木雲八郎
額賀与次衛門
沼田豊也
長山徳十
野沢藤一郎
富田太之右衛門

戦死

主として市川三左衛門、朝比奈弥太郎、らが会津若松城の落城の後、水戸城奪回を目的をもって、水戸城を攻め、弘道館の戦いで戦死した諸生派

★ 水戸城内の戦い

徒士 志水陸一郎
志水・従者 黒羽鉄五郎
同 黒羽新八

★ 弘道館内の戦い

大嶺連八
大森彦十郎
小泉藤三郎
笹島左太郎
安松万次郎
吉川新介
深谷長四郎

小十人組

★ 水戸城三の丸の戦い

若年寄 藤田主書
大目付 猪飼伝衛門
徒士目付 大久保久八郎
普請奉行 河合伝次
後小普請組 後藤小平太
大沼平蔵
小貫要介

★ 三の丸の戦い

後小普請組

川崎六郎
木村謙吉
木村弥一郎
安部弥吉
市毛子之吉
石川多七
打越所一郎
久保管衛門
小島為四郎
佐々八三郎
菅谷貞蔵
田島十次郎
田崎年次郎
高倉常五郎
高野金七
高野田衛門
茅根善吉
戸村三郎四郎
代官役列町中役生井秀三郎
中沢寅一郎
滑川総一郎
長沢亀之介
藤田卯之介
松田半左衛門
富田市之介
村松信蔵
目黒安次郎
森山友衛門
渡辺織之介
渡辺哲之介

奥番組 宮田銀五郎

★ 市川三左衛門邸の戦い

薄井春吉

以上

『維新前後の水戸藩』山本秋広氏の著書による

○松山戦争、その他の主な戦死者

(八日市場―明治元年)『再記載』

執政・家老 朝比奈弥太郎泰尚
小姓頭 朝比奈泰彙

徒士目付

上彦四郎

大久保貞蔵
大高弥兵衛
小貫理三郎
寛助太夫

執政・家老

同心頭 佐藤主税

大番組 佐藤貞之介

譜代同心 鈴木欣一郎

町奉行 丹下乙吉

徒士目付 富田理助

徒士頭 生井松次郎

小十人目付 橋本小三郎

大番組

郷土

郷土

馬廻組

馬廻組

★ 執政・家老

市川三左衛門
「明治二年、江戸で捕縛され、後に刑死」

○会津戦争戦死者『再記載』

(会津城攻防戦) 明治元年
執政 家老 大森弥三左衛門
鷲子村郷土 薄井友衛門
岩上彦左衛門
大高清介
荻昌介君賢
佐々木治兵衛
高田秀三郎
高橋木一郎
高橋与蔵
瀧徳太郎
宮田金蔵清広
宮崎弥介
松本辰蔵
福田義介
江端義之介

徒士

大目付

与力

合図役

徒目付

寺社役

佐藤留男

斎藤新六郎

益子民部左衛門

益子寛介

大森金六郎

朝比奈千次郎

河合子之吉

小山金平

より客観的な「水戸史観」を

求めて 副会長 前澤瑞穂

一 幕末・水戸藩「ラストサムライ」の軌跡

幕末期には全国諸藩に革新と保守の対立が多く見られた。就中、水戸藩では徳川「三家」という事情もあって、血で血を洗う派閥抗争にまで発展した。

水戸には藤田幽谷・東湖の流れをくむ改革派「天狗党」と、立原翠軒の考え方を重視する門閥・保守派「諸生派」があった。前者は藩主・斉昭の改革を支持し、多くの中、下士層がこれに参加した。これに対して、後者は譜代門閥派藩士と弘道館学徒を中心とした上級武士の一集団であった。諸生派は急激な藩政改革には慎重で、藤田派とも対立した。

嘉永六年（1853）ペリーが浦賀に来航した。これに続いて、異国船の入港がしだいに多くなった。時の孝明天皇は極端な異国嫌いで、幕府に対して攘夷命令を出した。しかし、「桜田門外ノ変」以来、極度に勢力を失っていた幕府は、勅命に応えることに二の足を踏んでいた。これに業を煮やした天皇は、安政五年

（1858）水戸藩に攘夷の勅命を下した。これが「戊午の密勅」である。

これを受けた斉昭は直ちに「尊皇攘夷」を天下に標榜するが、攘夷実行には慎重な態度をとった。斉昭は当時の異国の事情に通じ、国内の現状をもよく知っていたからである。先に、「新論」を発表し（文政八年・1825）、尊皇攘夷を強く訴えた会沢正志斎でさえも次のように語っている。

「屯集者（過激攘夷者）は尊皇攘夷の本義をとりちがえてゐる。攘夷が容易に実現できるというのは認識が甘い。そんなことでは水戸家は孤立し敗北して天下の笑ひ者になつてしまふ」 「流星の如く」（瀬谷義彦、鈴木映一 著より）

一方、斉昭も「内戦外和」策をとり、表むきは攘夷を唱えながらも実行には至らず、和をもって引き延ばし、その間、国内の武備と士風の充実を促していた。

こうした藩主、学者らの消極的な態度に、過激攘夷派は戸惑いを感じながら、長州藩の同志と連絡をとり決行の日を待っていた。

万延元年（1860）八月、斉昭は六十一歳で死去した。その四年後、元治元年（1864）三月、藤田小四郎ら尊皇攘夷の旗印を掲げて筑波山に挙兵した。これを天狗党筑波勢と呼び、尊皇と幕政改革（一部倒幕）を標榜していた。

一方、諸生派は藩命及び幕府の協力を得て、天狗党の追討に当たった。天狗党は敗北し、水戸を脱して京都に赴き、徳川慶喜に会ってその真意を訴えるが却下される。時に、慶喜は二十八歳で「禁裏守衛総督」・皇室の御領守衛総督の役にあり、十五代將軍になる一年前の事であった。

慶喜は天狗党の措置を追討軍隊長・田沼意尊に委ねた。田沼は天狗党に反幕の罪を負わせ、武田耕雲斎、藤田小四郎ら352人を斬首した。慶応元年（1865）正月のことであった。

この事件から一年後、慶喜は孝明天皇の信頼のもとに、二十九歳で十五代將軍となる。

その半月後、孝明天皇が三十六歳の若さで崩御する。（天皇は親幕であつたため倒幕派による毒殺説もある）これにより十六歳の明治天皇が即位する。

明治天皇の母君は中山忠能「倒幕派の公家」の娘で中山は天皇の外祖父に当たる。倒幕派の薩摩・長州は中山の支援で、若い天皇を擁し、天下に官軍であることを標榜する。更に、勅命による倒幕宣言が出る。慶喜も官軍には逆らえず、大政奉還をし、恭順な態度をとる。しかし、薩摩・長州の官軍は王政復古を宣言し、更に徳川家及び徳川方残留派を賊軍とし、武力で討伐することになった。

これにより、水戸の諸生派は窮地に陥った。諸生派ばかりではない。京都在住の水戸藩兵約800人の「本圀寺勢」は、官軍（薩摩・長州軍）に従うべきか、それを拒否すれば賊軍となり討たれる破目になる。彼等は慶喜の親衛隊として京都に残留していた天狗党の別派である。従って、もともと諸生派とは対立していたが、だからといって水戸の諸生派を討つことにも躊躇があった。そのうち、官軍側から水戸の諸生派を追討せよとの勅命が水戸藩主・慶篤に下される。慶篤はこれを受け、複雑な思いで諸生派追討の命令を本圀寺勢に出した。本圀寺勢は明治元年3月16日水戸に到着するが、諸生派は3月10日に水戸を脱していた。

水戸を脱した諸生派は、市川三左衛門、朝比奈弥太郎らを頭に、凡そ500人、会津から北越に赴き各地で倒幕軍と戦う。途中、200人を失い、回生を誓って、明治元年9月29日、水戸に帰還、城内に入らず弘道館に布陣する。

10月1日、本圀寺派と諸生派が弘道館で激突する。これを「弘道館の戦い」と呼ぶ。

この戦いで諸生派は敗北し、多くの戦死者、自刃者を出した。生き残りの約100名は水戸を脱して千葉の八日市場に赴き、水戸追討軍と最期の決戦をする。しかし、諸生派に利あらず全滅する。

君ゆえに捨つる命は惜しまねど

志が不忠になるぞ悲しき

水戸藩家老 市川三左衛門
辞世の歌である

異郷に眠る殉難士を偲んで「前澤」

梅童る異郷に眠る

譜代の士

二 異郷に眠る水戸・殉難士の供養について
他県地元民による

無償の善意に感謝

水戸幕末殉難士の墓及び供養碑が他県に多く見られる。党派の別なく、地元民の無償の善意と協力により設置されたものである。折々には、地元民が献花、線香を手向けて慰霊にあたられている。これに対して、水戸人の関心は少なく、その場所への関わり方も必ずしも同一ではない。ある場所などは水戸人から、その存在すら知られていない所も多い。ここに、主なものを掲げ、他県地元の方への感謝と、これらに対する、さらなる関心を水戸人に喚起したいと思う。

天狗派・筑波勢

★「水戸殉難士の墓」

福島県敦賀市松原町 東迎寺内
明治元年建立 381名を弔う

★「松原神社」

墓所の真向かいにあり、411人を祀る

※毎年10月に慰霊祭を実施する
地元及び水戸の有志が参加する

諸生派・市川勢

★「水戸藩兵供養塔」明治元年

栃木県湯津上村佐良土

地元村民が募金して建てる

★諸生派殉難士慰霊の碑

千葉県匝瑳市八日市場中台

・「墓と供養塔」明治2年

時の県知事の命令で地元民が建てる

・「水戸藩殉難士弔魂碑」

大正15年 地元有志が建てる

※碑文は 朝比奈知泉

市の史跡として小公園化され、

地元民による献花・焼香が絶えない

★「水戸藩兵供養塔」

栃木県湯津上村片府田

※明治22年 地元 婦人会に

よって建てられる

★「北越戊辰の役水戸戦没者供養碑」

新潟県西山町灰爪

平成元年 地元 荒木氏の私有地に、荒木氏が中心となり地元有志

が供養塔を建てる

平成元年 水戸市・来栖平造氏ら

が地藏菩薩像を供養碑の側に

献納する

★「水戸藩諸生党鎮魂碑」

福島県会津若松市飯盛山の山麓

白虎隊記念館敷地内

平成12年 水戸市 来栖平造氏

が中心となり仰天会有志が建立

会津の慰霊碑



八日市場の慰霊碑



新潟 灰爪の丘の慰霊碑



三 諸生派「恩光無辺之碑」の建立について

旧天狗派藩士・室田義文に学ぶ

そもそも水戸藩は、成立以来、尊皇敬幕を規範としており、天狗派が天皇側、諸生派が幕府側という分け方は正しくない。むしろ、前者を「尊皇幕政改革・攘夷派」、後者を「尊皇敬幕保守派」と呼ぶべきだと思う。しかし、諸生派は明治維新の際、徳川方につき水戸家を最期まで死守したことにより「賊軍」と呼ばれ、先祖以来、水戸徳川家の門閥譜代藩士としての存在も忘れられてしまっていた。

この時にあって、「諸生派・殉難士の慰霊碑」を建てようとの篤志家が現れた。その人はなんと、元・天狗派藩士「室田義文」翁であった。室田義文は明治元年、天狗派兵として「弘道館の戦い」に参加、諸生派の銃弾を受けて重傷した。その後、彼は新政府の官吏になり、高官、井上薫の秘書、伊藤博文の随行員など、伊藤がハルビンで暴漢に暗殺された時に、伊藤の最期を看取った人物としても知られている。室田はその後、貴族院議員として活躍する。晩年は水戸に帰り、幕末殉難士慰霊の碑の建立に当たる。さらに、

水戸育英会会長を務め、人材教育にも貢献している。

諸生派の慰霊碑建立に当たっては、旧同志天狗派から、かなりの抵抗があり、彼は決死の覚悟で実行に踏み切ったという。彼の記録に次のように書かれている。

「水戸人の一部の人からは、奸党と呼ばれ、勅許の賊とまで罵られ、今日まで容れられざる先輩のために、絶えて成さざるし仏事を営み、同時に慰霊碑を計画した。予・室田が、この事を成さざれば、だれぞ成すか。我敢えてこれを成す。」と、さらに、昭和11年には、同所において、第一回の慰霊の祭が挙行され、次の方々が列席された。

- ・ 前 宮内大臣・田中光顕閣下
- ・ 高井秘書官
- ・ 安藤・茨城県知事
- ・ 中崎・水戸市長
- ・ 岩崎・水戸警察署長
- ・ その他

やがて、軍国主義の高まりにつれ、後期水戸学の天皇観が時代の典範として注目されていった。同時に、近代戦没者や幕末天狗派への評価がいつそう高まっていったと思われる。それに反して、諸生派に対する関心

はとみに薄れていった。室田翁も既に亡くなり、慰霊の行事も中断のまになつていった。

しかし、近年、諸生派への関心が復活し、平成18年10月に子孫、縁者、関係者により「水戸殉難者恩光碑保存会」が発足した。さらに、茨城プレスセンター社長・市村眞一氏の著書（市川勢の軌跡）が多く、読者を集め、諸生派への関心と評価を高めるに至った。

四 「城」のない城下町・水戸

昭和20年（1945）までは城らしきものはあった。子供のころの思い出として心に残っている。

天守閣ではなく、三階櫓であった。これは昭和20年の夏、アメリカ軍の空爆で焼失した。水戸城本城跡に私の母校があるが、かつては水戸駅からよく見えた。現在は高層マンションの影に隠れて見えなくなった。寂しさより残念な気持ちである。

この本城跡には、明治初年まで旧城の建物があり、発足当初の県庁舎の一部であった。この建物も明治5年、ナゾの放火事件によって焼失してしまつた。

明治4年、茨城県が誕生し、勝ち組の水戸士族（天狗派）たちは、

「県政はおらの手で」を望んでいた。しかし意外にも、旧他藩士出身の県令に県政を奪われてしまった。士族（天狗派）たちは、これに反発して県令を悩ませた。初代・山岡鉄舟もわずか一カ月で任務を降りた。

明治5年、旧・大村藩士（長崎）渡辺 清（元、奥羽列藩軍追討参謀）が県令となる。その年の7月25日、放火により「水戸城本丸炎上事件」が起こった。

渡辺県令は、反県政の水戸士族を放火犯人と決め付け、捕縛・投獄の厳しい弾圧を加えた。この事件は、未解決のまま今日に至っている。

この事件以来、水戸は静かになつたと言われている。同時に水戸本来の「魁の精神」も、前へ進む元氣も失われたと語る評論家もいる。果たしてそうだろうか。

水戸城 三階櫓



五 より客観的な「水戸史観」を求めて

水戸には、旧藩士の子孫、縁者、その支持者による「会」がある。その主なものは「天狗派系」と「諸生派系」である。両派の対立は無いが、慰霊や催事は別々にやっている。かつては、「慶喜公」や「慶篤公」に對しても、それぞれ異なった思惑があつたようである。更に両者党争の遺恨を引きずり、対立していたとも言われている。

もし、少しでも、このような伏流があるなら、清算して新しい「水戸史観」に立つべきである。その第一歩は幕末殉難士に対する客観的認識である。党派、勝者、敗者、身分を問わず、殉難士のすべてが、今日ある礎石の先人であり、畏敬の対象者であるという認識である。

私たちは、水戸徳川家の現当主である「斉正」氏とお会いした。その時、私たちとの和氣藹藹の談話のうちにも、両派に氣遣う同氏の複雑な心象を感じられた。

徳川ご三家で知られる水戸市の発展は、行政主導のもと、水戸徳川家、現当主の参加と市民が一体となつて進めなければならぬ。「黄門祭り」や旧藩士の慰霊行事に、水戸徳川家現当主のお姿を拝見できないのを、

残念に思うのは私一人であらうか。

平成二十年十月、千葉県匝瑳市八日市場で、水戸殉難士「百四十年忌慰霊祭」が挙行された。匝瑳市長・江波戸辰夫氏、同市議会や各団体役員の出席のもと、厳肅かつ盛大に行われた。水戸からの参加は、関係者を含めて四十名程度で、地元民の参加数には及ばなかつた。それでも、水戸市加藤浩一市長からメッセージを頂き、更に水戸市議会議長、伊藤充朗氏のご参加もあり、本市・水戸市の誠意が示された意義のある式典であつた。

平成二十二年十月には、福島県会津若松市飯盛山・山麓の白虎隊記念館敷地内に建立された「水戸藩諸生党鎮魂碑」前において、建碑十周年を記念して、「水戸藩国事殉難士慰霊式」が盛大にかつ厳肅に挙行された。白虎隊記念館館長・早川廣中氏、会津史談会会長・坂内實氏ほか役員の方々、水戸からは加藤浩一市長のメッセージを水戸市教育委員会教育長・鯨岡武氏からご挨拶と共に、披露頂き、水戸市議会議長代理として副議長・雨谷精一氏、元議長・高橋丈夫氏ほか議会及び市当局の方々のご参加を頂き、白虎隊士を始め、会津戊辰戦争・会津藩犠牲者も共に墓参、慰霊の行事が行われた。

歴史を学ぶことはバックミラーで、後方を確認して前へ進む自動車運転に似ている。

「篤姫」の大河ドラマが放映されて以来、明治維新に関する書がブームになつてゐる。水戸は「明治維新の魁」と自称する我々だが、その影は意外に薄い。水戸は魁の「痛み」だけを大きく受け、結果の花も実も薩摩、長州に奪われてしまった感がある。

こうした著者の管見にとらわれず、水戸の歴史を客観的に見直すこと、さらに、誇るべき先人の業績に学び、水戸人としての誇りをいっそう高めていくこと、過ぎた改革は望まないが、時代の進歩に即応し、過去の歴史の反省にたつて、より賢明に前へ進むことのできる「水戸」でありたい。以上

前澤瑞穂

希望とは違ふようなものである。誰かが先に歩けば道がでる。それに続いて多くの人が歩けば大きな道となる。

(鲁迅・作 「故郷」より)

常陽芸文より引用(事務局)

水戸藩に限らず、藩政において改革派が活発になつた所には必ず、保守勢力の壁といったものが出現する。出現というより、幕藩体制を支える人々の存在そのものが基本的には、すでに「保守」であつた。そうした保守の中核となつたのが、門閥、すなわち、譜代の良い家柄の上級藩士たちである。

水戸藩の場合、幕末期の尊攘激派の活動に對し、活発な反応を見せた保守派の人々が「諸生派」あるいは「諸生党」と総称されてきた。けれども、「諸生派」「諸生党」又「門閥派」にしても、彼ら自身がそう名乗つたわけでも、党派宣言をし何らかの党派の名乗りをしたわけでもない。同時代の第三者や、時によつては、敵対勢力、さらに後世の人々が、便宜上、そう色わけして呼んだだけなのである。

水戸藩の場合、天狗動乱の時に、門閥派の鎮圧部隊で最も活躍したのが、藩校・弘道館の学生たちだつた。学生たちは「諸生」と呼ばれた。そこから天狗派・天狗党に對立する保守門閥派全体が一般には諸生とみられ、「諸生派」さらに「諸生党」などと称されてきた。以上

常陽芸文センター

東日本大震災

災害状況

平成23年3月11日午後2時46分、大地震が発生し、東日本全域に甚大な災害が発生しました。続いて、東京電力福島第一原子力発電所爆発事故により、各地に、放射線被害が発生しました。

想像を絶する地震、津波、停電、断水、鉄道線路損壊、道路損壊等々。放射線被害、避難生活、風評被害、土壌汚染、農作物汚染、魚汚染等々。政府は「東日本大震災」と呼称。昭和20年終戦当時の大混乱以来の未曾有の国難となりました。

茨城県及び水戸市周辺災害状況は報道の通りであり、数え切れません。市庁舎も損壊・使用不可となり、鉄道線路の損壊、常磐線、水戸線、水郡線の不通、橋の損壊、港の損壊、断水、家屋損壊、等々……

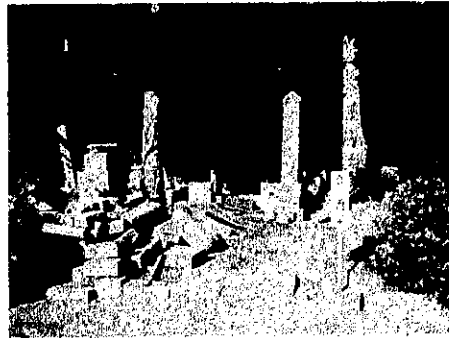
歴史遺産損壊はどうか
弘道館の損壊、偕楽園の南崖崩落、好文亭損壊、など新聞に報道されているとおりです。

本会に関係する所で、祇園寺墓所の各家の石碑は殆ど損壊し、また、倒壊してしまいました。

次の写真は、諸生派家老・市川家、朝比奈家の墓です。



祇園寺 朝比奈家の墓地



祇園寺 市川家の墓地

会費納入のお願い

本会は会員皆様の会費によって運営しています。会創立以来、会の財政は厳しい状況にありましたが、役員の勤労奉仕により節約をして、不足分は寄付金の協力を頂き運営して参りました。本年・第5期より、健全運営のため「年会費・二千元」と改定させて頂きましたのでご理解のほど宜しくお願いします。

寄付金

一金八千円也 川上有文
一金二千元也 清水光夫

参考文献 資料 著者

常陽芸文 常陽芸文センター
市川勢の軌跡 市村眞一氏
より客観的な「水戸史観」を求めて 前澤瑞穂氏

旧水戸城二之丸・三階櫓 写真
丸山写真館蔵 丸山英二氏より

水戸城大手門の古写真
文京ふるさと歴史館蔵(東京)

弘道館 写真ほか 事務局撮影
水戸藩諸生派殉難者姓名

「維新前後の水戸藩」山本秋広氏
「水戸藩の戊辰戦争」山形 紘氏

編集後記

★このたびは、大地震・津波・福島第一原発事故等、大変な事態となりました。被災者皆様の早期復興を心よりお祈り申し上げます。

★本会報は数少ない水戸藩諸生派に関する資料(著書、論文など)の中から重要部分を抜粋紹介し、会員の皆様と共に水戸藩末史の理解を深めて参ろう、という趣旨のもとに編集しています。

資料提供の皆様には厚く御礼申し上げます。

又、会員の皆様の所に秘蔵の資料がありましたら是非ご連絡をお願い申し上げます。

★本号では、主に水戸関係を中心にまとめました。

明治元年の「弘道館の戦い」等。

★会報知恩第9号

平成23年5月1日発行

水戸殉難者恩光碑保存会

編集顧問 前澤瑞穂

編集委員 清水光夫

川上有文

岡見 薫

綿引周一

印刷 編集委員